

昔の賑わいをほうふつとさせる 旧街道筋

江戸期の商家や町家が連なる

塩田宿は有明海につながる塩田川の川港があったことから、塩田津とも呼ばれています。塩田宿の街道筋と平行して流れる塩田川の川港は昭和40年代まで利用されていました。川港の「塩田津荷揚げ場跡」が今も残っています。

荷揚げ場跡のそばには荷の重さを計った「検量所跡」があります。現在は観光案内所「町並み交流集会所」として新しい役割を担っています。川沿いには1階には荷揚げした物資を保管し、2階には商談や船乗りや商人が休憩をした「座蔵」と呼ばれる建物が連なっていたそうです。座蔵へ向かう「タナジ」と言われる石段も川沿いにとどこに残っています。

旧街道筋に入ると、かつての賑わいをほうふつとさせる大きな商家や町家が続く町並みが続いています。「町並み交流集会所」に隣接する旧下村家住宅は、江戸期に建てられた草葺きの民家です。近くに約160年前、江戸後期に建てられた豪商・廻船問屋だった「西岡家住宅」があり、国の重要文化財になっています。すぐそばには江戸末期建築の居蔵造りの大型町家「杉光陶器店」があります。三の蔵は明治末から大正初期まで塩田銀行として利用されていました。

築100年を超す元薬屋がギャラリー「長崎街道塩田宿レトロ館」、古い町家が食事処としても活用され、かつての面影を残しつつ新しい息吹を注ぎ込まれています。



有田焼の原料・天草陶石などが荷揚げされた「塩田津荷揚げ場跡」



船で運ばれてきた陶石などを量った「検量所跡」



豪商・廻船問屋の屋敷「西岡家住宅」



居蔵造の大型町家「杉光陶器店」



江戸時代を中心にした民芸品などを多数展示している「長崎街道塩田宿レトロ館」



町の通りには大型の町家が続く。家の角や、町中には現在も恵比須像が祀られ、当時の賑わいが感じられる塩田宿の町並み

佐賀の窯業を支えた 志田焼

長崎街道をはさんで鍋島藩本藩の領地・東山地区と支藩蓮池藩の領地・志田西山地区で作られていた志田焼。16世紀後半、志田焼が作られ始めたころは陶器でした。しかし、塩田宿には天草陶石が荷揚げされたこともあって、磁器が作られるようになりました。特に染付の皿製品が大量に作られ、幕末期には佐賀で生産される磁器の半数にも及んだとか。

大正から昭和になると火鉢や日用品など日々の生活に欠かせない陶磁器を大量生産し、全国に向けて出荷されるようになります。大量生産の拠点になったのが大正3年に、長崎街道沿いに創業した製磁工場。23棟ある大規模なもので陶土製造から焼成まで全工程を行うという近代化された工場でした。時代の変化とともに生産量が減り、昭和59年に閉鎖されました。

その工場跡は大正・昭和期の施設や道具が残る貴重な資料として「志田焼の里博物館」として保存され、「近代化産業遺産（経済産業省）」にも認定されました。中に入れば今にも職人さんの息遣いが聞こえてきそうです。国内最大級だった窯ではコンサートをしたり、ロクロ体験をしたり、さまざまな形で利用されています。

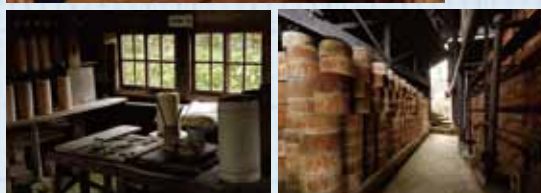
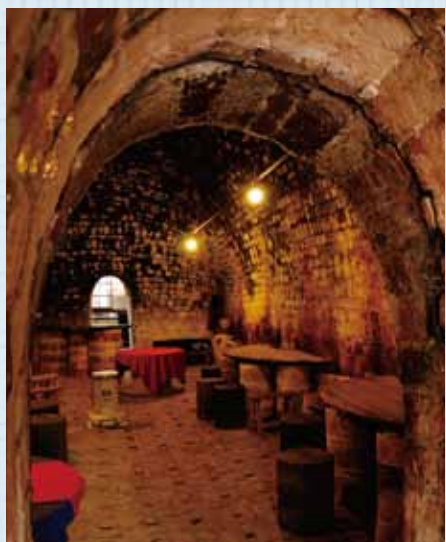
工場に隣接する「志田陶磁器」の3階にある「志田焼資料館」には今ではほとんどお目にかかることがない江戸初期の志田焼が展示されるなど、志田焼の移り変わりがわかる貴重な資料があります。佐賀の窯業を支えた志田焼の里にぜひ足を運んでください。



志田焼を知るためにぜひ足を運んでほしい「志田焼資料館」



大正時代に建てられた志田焼を納める焼きもの倉庫「志田の蔵」。現在は販売場として活用



地元有志が集まり卸業として明治期に創業した志田陶磁器株式が作った志田焼生産の工場跡「志田焼の里博物館」



column.04 ▼塩田津のこと詳しく案内

観光ボランティア「塩田津町並み保存会」

地区住民をはじめとした約200人が登録している「塩田津町並み保存会」。観光案内所「町並み交流集会所」を拠点に江戸後期の商家や町家や町並みが残る塩田津の修理家屋の見学会を開いたり、イベントや塩田津のマップを作成したり、観光ボランティアとして町並みの案内役を務めています。観光ボランティアだけが知っている秘密スポットを教えてくださいませんか。ぜひ利用してください。

しかし、いろんな恩恵をくれる塩田川だが、少しの雨でも増水し、旅人の行く手を阻んだそうだ。度重なる足止めは不便なことも多く、江戸時代末期には嬉野までの別ルートができ徐々に塩田宿もだんだん静かな宿場町に変わっていった。

そんな塩田宿の往時の面影は今でも色濃く旧街道筋に残る。通りの両脇には外壁を漆喰いで塗り固めた居蔵造りの陶器店など古い商家が12軒も残り、町角には商売繁盛を願って祀られた恵比寿さんがいつもと変わらない笑顔で行き交う人を見守っている。その通りを歩くだけでかつての賑わいが聞こえてきそうな塩田宿は、平成17年、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された。長崎街道は、別名「シュガーロード」と呼ばれ、砂糖を使った菓子文化が花開いていた。塩田にも菓子文化が根付き、祝いごとのときに使う砂糖を水で煮溶かして固めた「金花糖」を作る菓子屋や飴屋など10数軒あったという。今では伝統菓子を作る店は、極端に少なくなってしまうが、「残していかなくては」という思いを持った菓子職人の手によって、次の世代へ伝統の技を引き継いでいる。



砂糖を水に加え125度の温度で煮つめ、鯛などの形をした型に入れて固めた砂糖菓子「金花糖」